

北村兼子の SP レコード『怪貞操』の発見について

篠塚 義弘

要 旨：なにわ大阪研究センターの研究プロジェクト「SPレコード（松本コレクション）のデータベース作成と分析」において、関西大学の女子学生第1号として知られている北村兼子が吹き込んだSPレコード『怪貞操』を発見し、文字起こしを行った。当時の婦人に対するジェンダー格差への主張である。同名の単行本は関西大学でも所蔵しているが、肉声レコードの確認は初めてである。

キーワード：北村兼子、SPレコード、ジェンダー、松本コレクション

筆者は、2020年度から2021年度にかけて、なにわ大阪研究センターの研究プロジェクト「SPレコード（松本コレクション）のデータベース作成と分析」に研究分担者として参加した。その中で、関西大学の女子学生第1号として知られている北村兼子（1903.11.26生－1931.7.26没。享年27歳）が吹き込んだSPレコード『怪貞操』を発見したので、以下に報告する。北村兼子が著した単行本『怪貞操』は、本学図書館と年史編纂室が所蔵しており、大場義之が機関誌『関大』第220号（1974（昭和49）年4月15日発行）に、『怪貞操』の本とレコードを作成したことを記載していたが、レコードの実物はこれまで確認されていなかった¹⁾²⁾。



写真1 SPレコード『怪貞操』

はじめに

関西大学総合案内2021（データ集）によると、2021年度の学部新入生は6,661人で、その内2,815人（約42.3%）が女子学生である。学部全体でも27,736人中、11,438人（約41.2%）が女子学生であり、年々増加傾向にある³⁾。女子比率の多さは、日本の大規模総合大学としてはトップクラスである。

歴史を遡って、関西大学が正式に女子学生を迎えるのは、第2次世界大戦後の幣原内閣による「女子教育刷新要綱」に基づき学則改正した1946（昭和21）年であるが、本学が初めて女子学生にも門戸を開いたのは、1923（大正12）年である。関西大学は、1922（大正11）年6月5日に大学令に基

づく大学への昇格を果たし、山岡順太郎総理事を筆頭に「学の実化」講座をはじめとする新たな取り組みを展開した⁴⁾。これらの取り組みの一貫として、翌1923年には女性の参加を認める「夏期語学講習会」や「日曜自由講座」を開催し、女子学生にも門戸を開いたのである⁵⁾⁶⁾。

その先陣を切って一人の女子学生、北村兼子が聴講生としてではあるが、1923年10月法文学部法律学科に入学した。その当時、すでに我が国ではいくつかの大学で男女共学制を実施していたが、非常に珍しい事象であったと言えて、現在とは隔世の感がある⁷⁾。

北村兼子について

官立大阪外国語大学（現在の大阪大学外国語学部）を経て、19歳で関西大学に入学した北村兼子について、入学後の活動を簡単に記しておく。大学2年在学中の1924（大正13）年6月、高等試験に出願したが女性であることを理由に受験不許可となり、同年末には教育の男女機会均等を掲げて女子学生連盟の演説を行った⁸⁾。



写真2 洋服姿で授業を受ける北村兼子

そして、在学中の1925（大正14）年には雑誌「婦人」2巻2号に掲載された『法律を学ぶ私』が認められて大阪朝日新聞社の試用社員となり、1926（大正15）年3月に法律学科全科目の聴講を修了して4月には正社員となるが、文筆活動に専念するため1927（昭和2）年7月に退社した。その後、文筆活動だけでなく、1928（昭和3）年ホノルルで開催された汎太平洋婦人会議に日本の政治部委員として市川房江（日本の婦人参政権の実現などに尽力した婦人運動家、後年に参議院議員となる）らと共に参加したり、1929（昭和4）年ベルリンで開かれた万国婦人参政権大会に日本代表として出席し、ドイツ語で「日本に於ける婦人運動と婦人公民権法案の否決」という講演を行うなど、婦人参政権の実現に向けて精力的な活動をしている。1930（昭和5）年には飛行機の操縦技術を学ぶが、1931（昭和6）年7月に訪欧飛行を目前に病死、享年27歳であった⁹⁾。

SPレコード「松本コレクション」

先ず、SPレコードについて、簡単に触れておく。SPレコードは、カイガラムシの樹脂を主成分にしたシェラックと呼ばれる材料で作成された平円盤に音を記録し、再生するものである。1分間

に78回転するSPレコードは、片面で約4～5分程度記録でき、日本では1960年代前半まで生産されたが、LP、CD、DVDなど記録媒体の進歩で姿を消した¹⁰⁾。

次に、松本コレクションであるが、伊丹市在住であった松本正美氏（故人）が蒐集した、主に大正から昭和中期にかけて日本国内で発売されたSPレコード群であり、今回の調査で、約4,000枚を確認した。その蒐集分野は、単に西洋クラシック音楽だけではなく、主だったものだけでも講演・朗読・実況記録に始まり、歌劇・民謡・映画音楽・流行歌から義太夫・謡曲などの日本芸能と幅広い。これらのコレクションは、当初、大阪音楽大学にご遺族から寄贈されたものを、本学が引き継いだもので、幾度かの移設を経たため、レコード枚数などの全体像が不明確になっていたが、今回全容を明らかにすることができた。この中で、本学と縁のあるレコードをいくつか確認することができた。そして、その1つとして北村兼子の肉声を記録したSPレコードを発見したのである。

北村兼子のSPレコード

当時のレコードは、音楽を楽しむためだけでなく、政治家の主張や講演、朗読、戦争の記録などにも大いに利用されていた。当時の最新技術を利用して音（肉声）を記録し大量に配布することは、世間に対して紙媒体以上の宣伝効果があったと思われる。

北村兼子は、単行本『怪貞操』の序の結びに「この本は、乞食が憐れみを乞う巡礼歌でなくして、卑しい男性に対する職業婦人の強い抗議でございます。」と記している¹⁾。北村兼子は、本だけでなく先進的なレコードを活用して、世間に対して、自らの被害体験に基づいた当時の職業婦人に対する男女間の不平等について反論したのである。

今回発見したSPレコードは、ニッター・レコード社の10インチ（直径約25.4cm）レコードで、レコード番号「2454」である。レーベルには、「主張 怪貞操 大阪朝日新聞社 婦人記者 北村兼子」とあり、録音時間は、実測でA面約4分43秒、B面約4分45秒である。本とレコードの発売時期について、本の出版は、井上章一の『近代日本のセクシャリティ19』に再収録された北村兼子の『怪貞操』の初版奥付で1927（昭和2）年2月5日印刷、同年2月10日発行と確認できた¹¹⁾。

レコードの発売時期については、『ニッタータイムス』1927（昭和2）年4月号に、『怪貞操』の新譜案内が掲載されていた¹²⁾。当時のレコード業界の慣行では、新譜案内掲載月の前月が発売月であるため、発売は1927年3月と思われる。また筆者は、レコードの吹込み時期を1927年2月から3月上旬の間の可能性が高い



写真3 単行本『怪貞操』



写真4 『怪貞操』のレコード・レーベル

と推測した。その根拠は、『怪貞操』前半部分と彼女の従来からの主張を元にしてレコードの吹き込み原稿は作成できることから、レコードへの吹き込みは、完成した単行本からレコード原稿を抜粋するのではなく、本の草稿原稿の作成とほぼ同時であると推測した。

レコードに関連した写真を、北村兼子の関係者から本学年史編纂室に寄託された同氏の遺品の中から発見することができた。写真5は、蓄音機吹き込み用メガホンの前で、出版した『怪貞操』を持って立っている姿を撮影したものである。当時のニットー・レコードはマイクを用いた電気録音の試験運用期間であり、旧来の機械式録音方式によるメガホンを用いていた。そのメガホンの前で読上げ用原稿ではなく、出版した単行本を持って立っている姿は、レコード宣伝のためのプロマイド写真ではないかと推測される。『ニットータイムス』1927年4月号にも同様の北村兼子の写真が掲載されている。



写真5 蓄音機吹き込み用メガホンの前で本『怪貞操』を持って立つ北村兼子

SPレコード『怪貞操』（文字起こし）

今回、SPレコードのオリジナル音源を文字起こししたので、以下に紹介する。

録音されている北村兼子の肉声は演説調で淀みがなく、力強い印象を受けた。

1点だけ注釈を加えておく。北村兼子は自らの様子を「洋服、腰弁と心ブラをした」と表している。当時としては珍しい洋服を着て、書生（男子学生）のように腰に弁当をぶら下げたり、心斎橋をブラブラ歩いたのである。大正から昭和初期にかけて最先端に行く「モダンガール」である北村兼子の主張をお読み頂きたい。主張『怪貞操』は、男女間の不平等を世間に訴える主張であり、最後の段落は日本の女性に対して不平等を覚醒させ、奮起を促す主張である。彼女の先鋭的な表現をユーモアと捉えるか、皮肉と解するか読者の判断は分かれると思われる。

なお、読みやすくするため、文章はなるべく常用漢字と現代仮名遣いを用いていること、並びに今日では不適切と思われる表現があることをお断りしておく。

○A面：主張 北村兼子 「怪貞操（上）」 約4分43秒

怪貞操とは、怪しい貞操、お化けの貞操で、形態からしてなんだかグロテスクのようですが、いうところは、私ども婦人が社会裁判に訴える、真剣の告訴状でございます。

虫のような一つの婦人記者を囲んで吠え立てる新聞雑誌がその数、実に三十に余る、二号で小さい、一号でも足らない、初号特号、なるべく大きな活字に見出しを組んで、刺激強く攻めかける。道楽にしてはたちがよくない。商売にしては余りにあくどすぎる。泥だらけの手を振り廻されてはたまりません。

先輩たちは「彼らのなすがままに棄てて置け」とおっしゃる。どこまで、いつまで黙っていなければならないんでしょう。もう怒ってもいい、^{かくど}赫怒してもいい。いやしくも貞操問題を持ち出して

女の一生に創^{きず}をつけたがる卑劣漢を放任しておけば癖になります。沢山な男の口から男の筆からけなしつけられている私が、こんなことに議論するのは尊いレコードを自己弁護に代用するばかりではないのです、大きくいえば職業婦人擁護であり、女性擁護であり、汎人間主張でございます。なぜかならば女性の行動に対する男性の態度は共存でなく、突き落としであります、批評でなく罵倒であり嘲弄でございます。こんなワンドフルな世界に生まれた女性は萎縮するか、または敢然として対抗するかの二途のいずれかを選ぶより外にないように運命づけられているのでございます。

洋服腰弁と心ブラをした。それは握り太のステッキをついて歩いたくらいの心持ちであったのに、また神経衰弱そうな男と偶然に自動車に同乗した。それも知り人と乗合い自動車で顔を合わせたくらいに思っていたのに、それが重大な結果に捏ねあげられる材料になろうとは全く夢です、天災です、職業婦人が活動の自由を要求する程度が高まっている今日に、いつまでも貞操を鳥国的の小幅ものにして道徳の標準を世界的の広幅ものに織れないものか、そんな道理を知らないのでもない、知って知らないふりで、やかましく吠えるのです、男と逢ったら一定の間隔を取れというのでしょうか、電車のように。

この貞操のスタンダードは日本だけにしか通用しない国産貞操であるから、このまま葬られてしまったら国産奨励になるわけなのですが、つねにはイギリスはどうか、アメリカはどうかと、西洋人の物代のような顔をして、外国の現状を論議の基調としている連中まで、都合のいい時だけカンカンの国粋党となつての品行方正づらは勝手すぎます。すべてのものが国際関係を持っている今日に、国境を超越した人類の思想が共通線をもつ今日に、自分の品行が疑惑に包まれたからといって、陰謀策動の前に倒れては悪例を残します。男は笑うでありましょう、彼女はとうとう倒れた、君も書いたか、僕もやったよ、と。

旧道徳廃れて、新道徳がまだ起らない、貞操の標準がきまっていないのですから思想体系からいえば職業婦人は遊牧の民であります。遊牧の民には国境も法律もない、ただ自己の信念の動くままにするより外にはない、まあいわば筆法に拘束されない米元章^{べいげんしょう}の滌墨山水でございます、女学校で教わった修身をそのままにやっけていっても、今日の教育は学校限りのもので、実社会に出て見れば額面通りに支払ってくれない震災手形でございます。

○B面：主張 北村兼子 「怪貞操（下）」 約4分45秒

自然主義、唯物主義、利己主義などの調合で現代思想が組み立てられていますから、社会に及ばず臭味なんかは少しも顧みることなしに一直線に進んで行く、舗装した模範道路に肥車を曳いて行くように。恋をするにしてもそのやり方で押し切るのはい悪いというのではございませんが、随分あつかましい方式で、私には出来ない。

日本伝統の安静な犠牲恋愛をうち毀してきたものは、日本伝統の恋愛と体系を異にする自由恋愛、科学恋愛で現在の状態では三つ巴の混乱状態を呈していますから、批判の余裕なき直写模倣派、時代を無視して伝来の様式に訂正を加えぬ攘夷派、その一部又は幾部を取捨する中間党に分かれておりますが、彼等の説くところはみな筆の上の詭弁であって、この混乱した安定の予想さえつかない折にぶつかった私たちは、この三派から思い思いの悪罵を満喫しなければならない不運な時代に生まれたものでございます。

「まだまだ悪口を書くぞ」と予告している雑誌もでございます。忍耐力の強いのに感心していますと次から次へと土の中から、のこのこ頭を出す。松たけにしてはシュンが過ぎている、筈にしては早すぎます、ひっこめひっこめ。ものには時季があるんですもの。

草も生えないような土地は土地としての値うちがない、そのように恋のない身体は、身体としての蛻ぬけがらでございます、私は恋愛を礼讃いたします、しかしその恋愛たるや、いわゆる恋とは恋ぶりがちがうのです、私の主張するのは恋の構成派でございますから頭の悪い写生派には構想が理解できないところもございましょう。恋愛は尊い、墮落は卑しい、恋愛即墮落ではない。

墮落したからといって私を攻める、それもよろしかろう、それから進んで私の属している新聞社にまで悪たいをつきます、そして放逐せよとわめきます、このやり方は戦いとして卑怯なもので、私はこれを憎みます。

研究会から政党内閣へ割り込んでさえ個人の資格だといいますが、私が墮落したからといって私の属する新聞社——とりわけ品性を尊重する新聞社を引合いに出すことは嫌がらせでございます、私は墮落しても憚りながら個人の資格でございます。

だがお気の毒さま、私は墮落してはいない、私のあとをつけ廻わして墮落の種を拾おうとしても、それは猫を解剖して熊の胆を探しているほどの無智さでございます、原稿をつきつけて、「あなたの品行問題を書くぞ」と脅しつけるのは、弱いと見くびっての敵前上陸であり、拷問墮落であり、拳骨こっ墮落であり、誘導墮落であり、本人の知らない下品調書でございます。

水平運動が社会から認められるようになったのは、そこに気骨があり、団結があり、かつ磅礴ほうはく的な熱とが機会を増して永遠たる炎となって燃えあがろうとする、その薄気味の悪いところにあります。鮮人運動にしましても、幾ばくたる不平があり、反発的気概がありますから、生命の凄みがあります。社会主義者の運動も、主義がある、勇気がありますから、遅くとも確かに試歩を進めています。これら三運動の可否・善悪は言わないとして、これら三運動が旧思想に対抗して、国家主義に挑戦し、貴族閥に肉薄して驚異を感じしめているということは、明らかな事実でございます。しかるに婦人運動の現状を顧みますときに、水平社員の声よりも、社会主義者の声よりも、また、鮮人の声よりも多く、全国民の約半数という大勢を擁しながら、何らの権利もなく、利益もなく、日がな嘲笑のうちに運動に盲動をもってしているのでございます。

ご婦人方よ、「君はすど鋭かれ！」、私はこの言葉をもって結びたいと存じます。

おわりに

彼女の主張は、極めて素直であり、先鋭的であった。あまりに先鋭的であったため、今日では忘れ去られているが、男女間の性差についての主張は、今日でも通用すると思われる。もし彼女がその後も活躍を続けていれば、ジェンダー平等が進み、日本のジェンダー格差の評価は少し違っていたかもしれない。

今回、北村兼子が録音したSPレコード『怪貞操』についての報告を作成するにあたり、職場や学外のレコード関係者など多くの方々の協力を得ることができた。心からお礼申し上げる次第である。

繰り返しになるが、レコードは寄贈を受けた松本コレクション約4,000枚のレコードの中から発見された。単行本『怪貞操』は関西大学図書館と同年史編纂室に所蔵されており、北村兼子のSPレコードに関する写真は同氏の関係者から年史編纂室がお預かりしている資料の中に含まれていた。関西大学は、2022年に「昇格百年・千里山百年」を迎え、そして2023年には北村兼子の入学100年目となる。この記念すべき佳節を前に、これらを結びつける報告をすることができたのは大きな喜びである。

引用・参考文献

- 1) 北村兼子『怪貞操』1927（昭和2）年 改善社
- 2) 大場義之「北村兼子（上）」機関誌『関大』第219号 p.4 1974（昭和49）.3.15.
同 「北村兼子（中）」機関誌『関大』第220号 p.4 1974（昭和49）.4.15.
同 「北村兼子（下）」機関誌『関大』第221号 p.4 1974（昭和49）.5.15.
- 3) 関西大学総合案内2021（データ集） p.11 2021.6.
- 4) 熊 博毅「関西大学の秀麗たち——女子学生ものがたり——」の記録 『関西大学年史紀要』23 p.39-57 2014.3.
- 5) 「夏期語学講習会」『千里山学報』第12号 p.8 1923（大正12）.9.15.
- 6) 服部嘉香「講習会礼讃」『千里山学報』第12号 p.24-25 1923（大正12）.9.15.
- 7) 「男女共学制の実施に因んで」『千里山学報』第13号 p.21 1923（大正12）.10.15.
- 8) 『婦人』全関西婦人連合会 1925（大正14）年2月号 他
『全関西婦人連合会 復刻版』不二出版 1996.5-1997.12
- 9) 大谷 渡『北村兼子：炎のジャーナリスト』東方出版 1999.12.20.
- 10) 『日本のレコード産業2021』一般社団法人日本レコード協会、2021.3.30. p.9 <https://www.riaj.or.jp/f/pdf/issue/industry/RIAJ2021.pdf>
- 11) 井上章一 解説「ジャーナリズムと性」（再収録『竿頭の蛇』、『怪貞操』）『近代日本のセクシュアリティ 19風俗から見るセクシュアリティ』ゆま書房 p.7 2007.12.25.
- 12) 『ニッポータータイムス』1927（昭和2）年4月号

（しのづか よしひろ 関西大学博物館学芸員）

